



自治会等と連携した「孤独・孤立に関する 悩みごと調査」を実施 ～戸別訪問で、つながりを創り、支援を届ける～

本市では、孤独・孤立の予防・早期発見を行うとともに、生活課題にきめ細やかに対応するため国の孤独・孤立対策のモデル事業の一環として、「孤独・孤立に関する悩みごと調査」を試行的に実施しました。

本調査の特色は、3点です。

- ①市、自治会、地域包括支援センターの三者が連携
- ②世代や属性を限定せず幅広い世帯が対象
- ③実際に訪問して聞き取りを行った

悩みごとの把握だけでなく、調査を通じて地域の関係性を創り、アンテナを高めることを目指す全国的にも珍しい取組です。

■調査の概要

- ◇調査期間：令和6年2月1日（木）～2月20日（火）（20日間）
- ◇調査方法：訪問調査（102件）及び郵送調査（145件）
- ◇対象地域：谷田町の一部地域（試行事業として地域を限定して実施）
- ◇訪問調査の主体：谷田町自治会と市又は東生駒地域包括支援センターの職員がペアを組んで実施
- ◇調査結果の概要：別紙参照

■今後の展望

今回の調査では、対象とする世代や悩みごとの種類を限定せずに幅広く聞き取りを行ったため、住民一人ひとりの様々な悩みごとを把握することができました。また、調査を行った自治会や地域包括支援センターにおいても「面識のなかった住民や地域のことを改めて知る契機となった」等の好影響がありました（別紙※参照）。

国の調査によると、満16歳以上の40%以上の人が孤独・孤立を感じることがあるとされているなど、孤独・孤立は、世代を問わず誰にでも生じうる問題になっています。

今回の調査は試行事業として谷田町の一部地域のみで実施しましたが、今回得られた成果や課題を踏まえ、引き続き、より効果的なアウトリーチのあり方を検討・推進していきます。

この件に関する報道関係からのお問い合わせ

生駒市地域共生サミット推進室（室長 齊藤） ☎0743-74-1111（内線 2960）

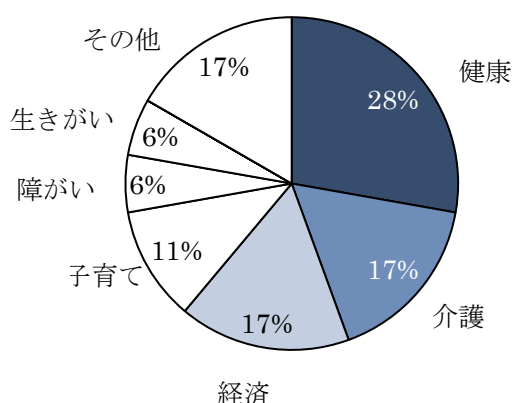
■調査結果の概要

◇回答率：訪問調査 51%、郵送調査 26.9%

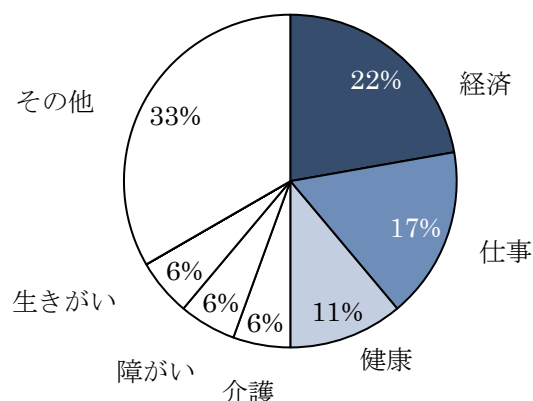
◇把握した悩みごと：保育所入所の悩み、金銭面での不安、近所や夫婦間の人間関係 等

◇悩みごとへの対応：内容に応じ、本人同意が得られたものは市役所内の担当部署へ情報提供して対応した他、地域包括支援センターが再訪問して介護予防事業等の福祉サービスにつなげた 等

■訪問調査 | 悩みの類型（重複回答）



■アンケート調査 | 悩みの類型（重複回答）



(※) 調査を担当した自治会や地域包括支援センターの感想（一部）

(自治会)

- ・新しく転居されてきた方など、地域の変化に気が付くことができた。
- ・訪問調査で直接会って話したことで、「これからは、お会いしたらまた声をかけさせていただきますね」という関係性ができた。
- ・市や地域包括支援センターの若い職員と訪問ができて、元気・活力を感じた。
- ・もっと声掛けや地域活動の周知をしていかなければならないと感じた。
- ・高齢者の一人暮らしの場合で、自分には絶対サポートが必要に見えるが、本人は問題ないと仰っているなど、支援の必要性の感じ方にもギャップがあることが分かった。
- ・事前案内を送付していたので、訪問したら「待っていました」と言ってくれる住民もいた。一方で、若い世代の方は留守がちだったり、深い聞き取りができないケースもあったので、工夫が必要だと感じた。
- ・今回はモデル事業としての実施だったが、ぜひ横展開を考えてもらいたい。

(地域包括支援センター)

- ・自治会の方がいたことで、訪問時に住民の方々の安心感があった。自治会の方の熱量を感じることができて刺激になった。
- ・2人ペアで回ったので、自治会と地域包括支援センターの関係強化にもつながった。
- ・意義のある取組だと感じたので、継続的な取組にしていければ良いと思う。